

竹田・前山合同ふるさと学研修 豪雨災害地訪問

7月27日に前山小学校の先生方とともに、平成26年の丹波市豪雨災害で被災された前山地区の東臯寺(とうこうじ)で合同ふるさと学研修を行いました。

平成26年丹波市豪雨災害とは (復興記念誌より)

8月15日から18日にかけて西日本に停滞する前線上の低気圧が東に進み、また南から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、前線の活動が活発となり、大気の状態が非常に不安定になったことで、丹波市内では市島地域、氷上地域を中心に局所的な集中豪雨となった。17日午前3時には、市島地域で1時間に91mmの猛烈な雨を記録した。



住職からは、「夜中、停電していてあたりが見えない中、戸を開けると雨どいが壊れて垂れ下がっているのだけが分かった。夜が明けてくると、本堂の建物自体が倒されて、雨どいだけが残って垂れ下がっていたことが分かった。一人ではどうすることもできず、家族を含め命だけとは考えた。あれから9年が過ぎようとしている。砂防ダムなど復興へ向けた整備はなされてきたが、気持ちの整理はまだまだできていない」と当時から今日までを振り返





りながらお話しいただきました。

また、市くらしの安全課の職員の方から、防災や減災への取組や、教育として子どもたちに身につけさせてほしいことは「自らの安全を守る行動がとれる」こと。そのために自然災害について正しい知識や技能を理解する場と主体的に判断する機会の確保が大事と伝えていただきました。

昔の話になりますが、本校で6年生を担当している際に、子どもたちと東北地方の『津波てんでんこ（津波が起きたら家族と一緒にいなくても気にせず、てんでばらばらに高所に逃げ、まずは自分の命を守れ）』について学んでいた時のことを思い出しました。ある子の「私は家族が心配で、残して逃げることはできない」との発言から、「どうして三陸の方は家族がいなくても逃げることができるだろうか」考えていきました。調べれば調べるほどに津波について学習を積み重ねられていることが分かってきました。小さいころから津波の恐ろしさについて学校だけでなく家庭や地域でも学んでいること。また、もしもの時は〇〇へ逃げようねと家族で確認し合っていることが、まずは自分の命を守る『津波てんでんこ』ができるんだという答えにたどり着きました。この学習を通して子どもたちは様々な災害について正しい知識と家族で話し合う機会の大切さを感じ取ることができたことを思い出しました。

竹田・前山は特に被害が大きかった地域でもあります。学校が統合すると、『防災』は地域にとってより重要な教育になると感

じています。今日の学びは、それぞれの学校で子どもたちに伝えていくことから始めていきます。

また、この研修会は、今年度丹波市で採用された初任者研修も兼ねていることから、私たち職員だけでなく、丹波市豪雨を経験していない先生方にとっても、これから自身の教育に活かしていくよい機会となりました。

お世話になった方々、本当にありがとうございました。